

朝日 歌壇 俳壇



〈日曜日のブローチ 02〉 junaida

うたをよむ 吟行のたのしみ

田丸 千種

まさをなせる空より枝垂桜かな
桜の季節、必ず口をついて出るのは高
浜虚子の弟子、富安風生のこの句だ。昭
和十二年、千葉県市川市の弘法寺での
「武蔵野探勝」にて作られた。
「武蔵野探勝」とは、武蔵野を中心に
毎月場所を変え、各地を吟行して句会を
行うという企画で、昭和五年から十四年
まで百回にわたって開催された。メンバ
ーは虚子を中心とした二十名から四十名
ほど。水原秋桜子、高野素十、中村草田

男ら錚々たる俳人が吟行記事を書き、月
刊の俳句誌「ホトトギス」に掲載された。
これを集めて刊行された虚子編『武蔵
野探勝』は、今読んでも躍動が伝わる。
野火ゆきて萱倒れゆくあはれかな
虚子の娘である星野立子の作品。「浮
間ヶ原」で一行は、何と戯れにマッチを
擦って草を焼いている。(昭和六年の話
です。真似しないでください！)
川を見るバナ、の皮は手より落つ
「川蒸気」に乗って隅田川を遊覧した
吟行派を駆り立てる。

日の虚子の句。十一月に熱帯季節が使わ
れているのも自由な昂揚の表れか。
『武蔵野探勝』で描かれているのは、
「討入の義士の様に」季節を見出さん
と、生き生きと野外へ繰り出す探勝俳人
たちだ。解放感あり、好奇心あり。未知
なるわが句との出会いを求めて、師弟と
もども、時間の許す限り、貪欲に句作に
励む。百回分の吟行の面白さが垣間抜き
で迫ってくる。次も虚子句。
春水に舟あり乗って腰かけぬ
こんな文字通りの向日性が、時代や風
物の違いを越え、二十一世紀の今も我ら
吟行派を駆り立てる。(俳人)

◆「大串章選」は選者が体調不良のため休みます。

「朝日歌壇2024」「朝日俳壇2024」 昨年
の「朝日歌壇」「朝日俳壇」の掲載作品をま
とめたシリーズ最新版。「歌壇」は各選者の
年間秀歌10選・朝日歌壇賞と総評、「俳壇」
は各選者の年間秀句10選・朝日俳壇賞と総評
を掲載。ASA(朝日新聞販売所)を通じて
も購入できます。(朝日新聞出版・各3080円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録
し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発
表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があ
ります。郵便での投稿は無地のほかがき1枚に1作品、横
に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661
晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、
俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき

佐佐木幸綱選

転動がなければこの地で続いていた暮らしも
箱に詰めて封する (東京都) 岡田真理子
三十年続いた会の別れが最後の集合写真の
寡黙 (光市) 松本 進
「来てくれてありがとう」とか犬の名とか樹
木葬の自由な墓石 (東京都) 上田 結香
雉子走る頭を上げて首伸べて茂みに隠る気配
を殺す (埼玉県) 吉川 英治
始まったばかりの介護が日常に変わりつつあ
り手抜きも覚えて (藤沢市) 遊佐 英利
だれのこ？実体験？と探られるせいで磨れ
てゆく相聞歌 (上尾市) 関根 裕治
ひとりだと歌い踊りもするのだがエレベータ
ーには監視カメラが (枚方市) 久保 哲也
囲ひ網破りてキョンが平らげし明日葉畑にし
ばしの囁然 (東京都) 大村 森美
スカウトの目つきになって球児らの攻守をチ
ェックしている小五 (金沢市) 竹内 一二
☆昼休みときどき物理の先生は理科室でキムチ
鍋をしている (奈良市) 山添 葵

【評】第一首、転動の季節。さまざまな思いをだいて、多くの人が新しい任地へ
引っ越してゆく。第二首、集合写真撮影の場面をクローズアップして、うまい。植
物観察の会とあった。第三首、樹木葬に取材した短歌をはじめて見た。

高野公彦選

馬場さんが選んだ一首君は今僕といっしょに
飯を食む人 (知立市) 林 純
四島を奪われ手だてなきままに八十年過ぐ今
ウクライナ (岩出市) 明治むつみ
安青錦応援しつつ夕飯の紅鮭見ればロシア産
なり (相模原市) 石井 裕乃
読者より早く朝日の記事を見て誰より早く悲
しみを知る (甲州市) 麻生 孝
施設での十六年の時を経てわが家に帰る骨壺
の母 (横浜市) 水谷 亮介
長谷寺の五重の塔の軒下に雪残りたるこの春
彼岸 (奈良市) 山添 聖子
食べ残し食品ロスの罪深し銀舍利の意味噛み
締めてみる (山形市) 安藤 正弘
春浅きヨコハマに灯は今宵なほ青く揺れをり
あゆみさん近く (市川市) 一之瀬 朗
「別れめ」の意味知られず卒業の子ら歌い
継ぐ仰げば尊し (ふじみ野市) 片野里名子
校門で六年生を見送った五年生全員泣いてい
た (奈良市) 山添 聡介

【評】1 首目、かつて恋人を詠んだ歌が馬場選に入り、結婚して今その人と暮ら
している喜び。そして馬場さんへの感謝。2 首目、八十年前に北方四島を奪った国
が、いまウクライナの領土を奪おうとしている。3 首目、安青錦はウクライナ出身。

永田和宏選

党内に総裁批判の声あふれこの国はまだ健全
である (朝霞市) 岩部 博道
乱心の殿を諫めず喝采す然なる思いに画面観
ており (舞鶴市) 吉富 憲治
文末にもうムハンマド・マンソールの名の見
あたらぬガザよりの記事 (和泉市) 星田 美紀
馬場さんに選んでもらった歌があるあの頃の
ような私で居たい (四日市市) 園田 信子
ひとつだけ朝日歌壇に悔いあれば選ばれたか
った馬場先生に (甲州市) 麻生 孝
ゆふすげに母君恋ふる歌八首載らされど数多
詠まれただらう (岡山市) 寺谷 和子
岬とは永遠に触れえぬ指とゆび龍飛と白神、
大間と汐首 (札幌市) 田巻 成男
荒神橋北側だけにある歩道鴨川のぞくは我ひ
とりなり (大和郡山田市) 四方 護
平和とは女性ひとり街を歩けること言う
アフガンの人 (長門市) 松岡 加恵
夜も更けて解体業者が集り来て憩ひの場とな
る珠洲の銭湯 (つくば市) 小林 浦波

【評】冒頭二首、為政者批判があるうちは健全だが、それが無くなると米国のよう
な危うさを孕むと詠う。三首目、朝日新聞通信員マンズールさんが、ガザの自宅で爆
撃され死亡したことを、「文末に」が巧い。馬場さん退任を惜しむ歌がまだまだ多い。

川野里子選

モノクロの『アンネの日記』を孫と観る廊下
の奥から聞こえる靴音 (春日市) 藤井 量子
君にキミの呼び方を聞く一年間準備して咲く
桜の下で (筑後市) 近藤 史紀
お父さんとお母さんは離婚したくなるだろ
う庭の巣箱は (町田市) 中野 功治
育児して家事をこなして介護してひっそり近
きし美声の母は (佐世保市) 近藤 福代
上質と「徳山みかげ」は切り出さる黒髪島の
白き骨削るがに (光市) 永井すず恵
泣いている人がいるのに手が出ないばかりは透
明人間なのか (横浜市) 石川 一郎
星月夜木立のピンに留められし鯨のごとき古
墳墓へ (小山市) 多田木まさのり
道の駅ゆがんだ南瓜あれこれし地元の人顔
になる妻 (岐阜市) 後藤 進
☆昼休みときどき物理の先生は理科室でキムチ
鍋をしている (奈良市) 山添 葵
一時間五百円にて始めた我が人生のセール
は続く (東京都) 富見井高志

【評】一首目、靴音が聞こえるのは映画の中か外か。わからないのが怖い。三首
目、庭の巣箱は壊れた家族の象徴なのか。六首目、手を差し伸べることでできない
自分へのもどかしさだ。九首目、先生の面白い「生熊」が観察されている。